

令和2年度大台ヶ原自然再生推進委員会

議事概要

1. 日時 令和3年3月4日(木) 9:30～12:30
2. 場所 (株)KANSO テクノス 4F 大会議室
3. 参加者

【委員】

木佐貫 博光 三重大学大学院生物資源学研究科 教授 (オンライン)  
佐久間 大輔 大阪市立自然史博物館 学芸課長代理 (オンライン)  
高柳 敦 京都大学大学院農学研究科 准教授 (オンライン)  
松井 淳 奈良教育大学教育学部 教授 (オンライン)  
村上 興正 元京都大学理学研究科 講師 (オンライン)  
八代田 千鶴 国立研究開発法人 森林総合研究所関西支所 主任研究員 (オンライン)  
横田 岳人 龍谷大学先端理工学部 准教授 (オンライン)

【オブザーバー】

淵上 弘文 近畿中国森林管理局 計画保全部 保全課 企画官 (オンライン)  
小林 正則 // 保護係長 (オンライン)  
役田 学 // 三重森林管理署 地域林政調整官 (オンライン)  
森下 真衣 奈良県水循環・森林・景観環境部 景観・自然環境課 主事 (オンライン)  
滝本 義久 三重県農林水産部獣害対策課 捕獲管理班 班長 (オンライン)  
大谷 尚輝 // 技師 (オンライン)  
北岡 孝之 (代理:畑中) 上北山村 地域振興課 課長 (オンライン)  
西出 覚 大台町 産業課 主幹 (オンライン)  
福岡 孝太 // 主事 (オンライン)  
北村 迅 // 主事 (オンライン)  
山岸 元博 吉野きたやま森林組合 森林経営課 参事 (オンライン)  
金岩 修平 上北山村商工会 経営指導員 (オンライン)  
江崎 良 近畿日本鉄道(株) 営業課 課員 (オンライン)  
寺田 武徳 (株)自然産業研究所 産学連携室 研究員

【事務局】

環境省近畿地方環境事務所	桜井 洋一	所長 (オンライン)
	木住野 泰明	統括自然保護企画官
	玉谷 雄太	国立公園課長 (オンライン)
	澤志 泰正	野生生物課長 (オンライン)
	西 大輔	自然再生企画官
	徳丸 久衛	生物多様性保全企画官
吉野熊野国立公園管理事務所	岩田 佐知代	国立公園利用企画官
吉野管理官事務所	関 貴史	国立公園管理官
	小川 遥	国立公園管理官補佐 (オンライン)
(株)KANSO テクノス	樋口 高志	環境部 マネジャー
	樋口 (保延)	香代 環境部 リーダー

(一財) 自然環境研究センター	安齊 友巳	研究主幹 (オンライン)
	千葉 かおり	主席研究員 (オンライン)
	中田 靖彦	主任研究員 (オンライン)
	日名 耕司	研究員 (オンライン)

#### 4. 議事

- (1) 令和2年度大台ヶ原自然再生事業検討状況の概要報告
- (2) 大台ヶ原自然再生事業における令和2年度業務実施結果
- (3) 大台ヶ原自然再生事業における令和3年度業務実施計画(案)
- (4) 令和3年度大台ヶ原自然再生推進委員会及び関係ワーキンググループの開催予定 (案)
- (5) その他

#### 5. 概要:

- (1) 令和2年度大台ヶ原自然再生事業検討状況の概要報告
- (2) 大台ヶ原自然再生事業における令和2年度業務実施結果

#### ◆大台ヶ原自然再生事業における令和2年度業務実施結果について

##### 【ワーキングリーダーによる総括】

- ・ ニホンジカのさらなる捕獲が必要である。カメラトラップによる調査で、季節ごとの分布の傾向がわかるので、来年度の捕獲は、分布予測をして捕獲圧を高める必要がある。捕獲効率を上げるために戦略を検討する必要がある。
- ・ ササとニホンジカの密度は負の相関があり、採食した影響がその年のうちにササに反映されているように見える。樹木の剥皮については、全体としては捕獲の効果が効いていると思うが、植生への採食圧は続いている。
- ・ コマドリ調査については、データが少ないのが課題。コマドリ調査隊などのボランティアの協力を得ながらも調査は毎年継続して、コマドリ調査は1回/5年は実施する必要がある。
- ・ ササ類が回復しているのは良い傾向であるが、シオカラ谷のスズタケの密度が減っていると感じられるので、今後着目しておくのが良い。
- ・ 新型コロナの影響も少なく、大台ヶ原の利用者数は多くなっていた。西大台利用調整地区の当日認定の上限数を撤廃したことなどが効いたのかもしれない。国立公園コンテンツ集の改訂がされ、環境省から積極的にPRされているものの、地域活性の循環が十分機能していない。今後は、地域活性化のためにガイド制度を活用すべきで、西大台等で大台ヶ原自然再生事業の取組などを紹介するツアーや総合的に大台ヶ原を紹介するツアーなどガイドを活性化する取り組みも必要と考えられる。

#### 1. 森林生態系の保全・再生

- ・ 特になし

#### 2. ニホンジカ個体群の管理

- ・ GPS首輪を装着し、ニホンジカの移動速度を把握することにより、REM法の精度が上がることを期待したい。最終的には糞粒法による密度推定からREM法に移行する際の検討が必要と

なる。また、生息密度の季節変化を押さえる必要もある。

- ・ 糞粒法から **REM** 法に移行するには、糞粒法との比較が必要となる。このため自動撮影カメラを糞粒法の調査地点に設置する必要がある。
- ・ **GPS** 首輪については、オスのデータが欲しい。
- ・ スズタケは、ニホンジカの生息密度が **5 頭/km<sup>2</sup>**以下にならないと回復しないように感じたが、下層植生が回復するためにどのぐらいまで生息密度を下げる必要があるのかが問題である。ササ以外の嗜好性の高い植物との関係を見ておく必要がある。
- ・ スズタケが回復するためには、ニホンジカの生息密度は **5 頭/km<sup>2</sup>**より少ないと思う。植生回復とのバランスが取れる密度域は **3~7 頭/km<sup>2</sup>**ぐらいかと思う。糞粒法は秋の調査なので季節によって密度が違うと思うので、**REM** 法に期待したい。
- ・ 緊急対策地区隣接地域のササ稈高のグラフは、測定データが数本しかないものは示さない方がよい。

### 3. 生物多様性の保全・再生

- ・ 特になし

### 4. 大台ヶ原全体の変化に関する調査

- ・ 大台ヶ原全体でニホンジカは減少傾向にあり、ササ類は回復傾向であるといえるが、シオカラ谷でササ類の減少がみられているのは心配である。現在は被度というよりも密度が減少しているような印象がある。今後急速に被度の減少をきたす可能性があるので注視が必要。
- ・ ササ等のメッシュ調査結果については、データベースをオープンにして、解析を外部の研究者に依頼するのも一つの方法である。このためには、データペーパーとして示すことが必要となる。

⇒ まずは、自己評価が必要である。

### 5. 持続可能な利用の推進

- ・ 新型コロナの影響があったが、秋にかけて利用者が増えたのはよいことだと思う。バスの利用者が減ったのは、減便とマイカーを利用する人が増えたことによる。路肩駐車が増えたのは問題である。新型コロナの影響で車の利用の仕方が変わってきている。どのような体制で利用者を迎えるのかを考えないといけない。利用者のマナーについても利用者層が変わってくると今までのようにはいかない。ポストコロナを念頭にガイド制だけでなくほかのことも含めて検討して欲しい。
- ・ 西大台利用調整地区への立入り申請で何度か旅行会社と話す機会があり聞いてみたところ、新型コロナの影響で近場の旅行が多くなったことや野外への旅行が人気となり、大台ヶ原もそういった旅行先として選択されているということであった。

(3) 大台ヶ原自然再生事業における令和3年度業務実施計画(案)

(4) 令和3年度大台ヶ原自然再生推進委員会及び関係ワーキンググループの開催予定(案)

### 1. 森林生態系の保全・再生

- ・ 防鹿柵カルテの作成のマニュアルがあるとよい。

## 2. ニホンジカ個体群の管理

- ・ 糞粒法の調査地点にも自動撮影カメラを設置して、結果を比較して欲しい。糞粒法と REM 法の関係の検討が必要である。
- ・ 連携捕獲に関連して、三重森林管理署で大台ヶ原と大杉谷のカメラトラップデータを統合した。大杉谷でも正木周辺が利用の中心となっている。捕獲場所を検討する際に統合したデータを活用して欲しい。
- ・ くくりわなのマニュアルを改定し、その方法でなるべく早く捕獲を実施して、捕獲数を増やすことが望ましいので、改定の議論は前倒しで行って欲しい。

## 3. 生物多様性の保全・再生

- ・ 特になし

## 4. 大台ヶ原全体の変化に関する調査

- ・ 特になし

## 5. 持続可能な利用の推進

- ・ 利用に関してはポストコロナのこともあるので、WG を開催することも含め検討して欲しい。
- ・ 利用については、令和 5 年度の計画改定の時は重要になると思う。WG が開催されないのであればヒアリングなどを行い意見を聴取しておくのが良い。
- ・ 7 月の合同 WG については、利用 WG の委員も入れておく。
- ・ WG、委員会の開催日程は先に決めておいてもよい。委員会については、3 月上旬に開催するのが良い。

## (5) その他

- ・ 上北山村では登録ガイドの紹介をしているが、料金について利用者からよく聞かれる。どう伝えたらよいか一緒に検討して欲しい。

以上